

1年 保健指導「手あらいの大せつさをかんがえよう」

新型コロナウイルス感染症を予防するための日常の取組のひとつに、「手洗い」があります。子どもたちも登校時、休み時間の終わり、給食の前後、掃除の後など、学校生活の様々な場面で手洗いをおこなっています。手についた汚れやばい菌などをしっかり洗い落とす手洗いをする事で衛生面での効果が高くなるため、担任は日々の指導を丁寧におこなっています。

1年生の学級活動の授業では、「手あらいの大せつさをかんがえよう」をめあてにして、養護教諭が指導者となって保健指導をおこないました。手を洗った後、ブラックライトに掌や甲を照らして汚れの付着を確認し、どの部分の洗い方が足りないかを考え、丁寧な手洗いのしかたを学ぶ実践的な授業です。子どもたちには、実験を通して手洗いの大切さを学び、学校でも家庭でも、これまで以上に丁寧な手洗いを実践できるようになってほしいと思います。



汚れの代わりに
クリームを手につけて実験開始です

お山のポーズやおおかみのポーズで
手を洗います



手洗い後にブラックライトで
掌や甲を照らします



洗い残しを確認して、
もう一度手洗いをします



<6つの手洗いポーズ>

